

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 1月 22日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 45分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 川内森の里 ( 鹿児島県 )
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>代表取締役・管理者</u> 氏名 <u>今村 さつき・三輪 奈緒美</u> ヒアリングを行った職員数 3名

### ※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

### ※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

### ※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670200544号		
法人名	有限会社 川内介護福祉会		
事業所名	グループホーム川内森の里		
所在地	鹿児島県薩摩川内市中郷6956番地49 (電話) 0996-27-6568		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年2月19日

## 【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤8人, 非常勤1.5人, 常勤換算9.5人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造セメント瓦平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有( ) 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85歳	最低 83歳	最高 92歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院・若松歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭には菜園や花、テーブル椅子などが設置されており、川内川を見下ろせる景観がホームの中からも一望でき、入居者は、ホームに居住しながら自然や景色を楽しむことができる。ホールは、家庭的な温かい雰囲気、天井は高く、狭いながらも圧迫感がない。職員は、入居者の得意なことや好きなことなどを活かしながら、入居者と共に過ごせるように日々取り組んでいる。入居者は笑顔や穏やかな表情であり、職員の入れ替わりがあまりなく、入居者、家族、職員と馴染みの関係が保たれている。
--

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 緊急時の対応の研修の充実や、感染症マニュアルの充実、全職員が交代で外部研修を受ける機会の確保など、職員会議で話し合いながら具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を職員は理解し、代表者も交え、自己評価を職員全員で行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームの現状やテーマに基づき報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かし、ふれあいサロンの参加などにむけた地域との交流促進に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時に相談苦情の窓口の説明を行っている。また、家族の来訪時にできる限り意見が引き出せるように個別に話を聞くよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの周りには家がなく、近所づきあいはむずかしいが、代表者の家族が自治会に加入することで地域との情報交換が行われるよう取り組んでいる。市の文化祭や祭りなど地域の行事への参加や小学校の運動会の見学、地域の託児所との交流など地元の人々と交流することに努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を全職員で見直し、入居者に合わせたペースで共にゆっくり過ごすことを目指した理念である。地域密着型サービスとしての理念をつくりあげるにはいたっていない。	○	地域密着型サービスとしてのホームの役割を目指した理念をつくりあげていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り、日常の支援のなかで、職員は理念を共有し、入居者に合わせたペースで共にゆっくりと過ごせるように取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所づきあいをする近隣はないが、代表者の家族が自治会に加入することで地域との情報交換が行われるよう取り組んでいる。市の文化祭や祭りなど地域の行事への参加や小学校の運動会の見学、地域の託児所との交流など地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員は理解しており、代表者も交え、自己評価を職員全員で行っている。評価を活かし、職員全員で話し合いながら、改善に積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状やテーマに基づき報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かし、地域との交流やグループホームについての啓発活動などに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの質の向上のために、事業所は市町村担当者と相談連携を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行するホーム便りや、家族の来訪時や状況に応じて電話連絡を行うなど、入居者の近況や健康状態など家族に随時報告している。金銭管理も月に一度は個別の出納帳にて家族の来訪時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談苦情の窓口の説明を行っている。また、家族の来訪時に出来る限り意見が引き出せるように個別に話を聞くよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりなどはあまりなく、職員と入居者は馴染みの関係を保っている。また、新しい職員が入る場合は、入居者一人ひとりの状況に合わせて配慮を行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、また、随時の外部研修を職員全員が交替しながら受けている。外部研修については、報告書を作成し伝達研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北薩地区のグループホーム協議会に加入しており、研修などに参加し、必要に応じて他のグループホームと連携を図っている。また、他のグループホームの職員の研修を受け入れるなど共にサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する事前に自宅や病院などに訪問し本人、家族などから話を聞き状況確認や思いの把握に努めている。また、本人、家族に事前の見学や一日体験入居を勧め入居者、家族と相談しながらホームの雰囲気に徐々に馴染めるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや家事などを入居者と職員が共に行いながら、入居者からいろいろなことを教わり、昔話に共に涙するなど、「もっと学んで教わって」の理念を日々実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から日常的に話を聞きだし、本人の思いや好きなことなど把握に努めている。また、普段の言動から思いを察知するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見は日常の会話で聞き、家族の意見は、家族の来訪時や電話などで聞いている。ケース会議を開催して、それらの意見を介護計画に反映させている。介護計画は作成後家族へ説明同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月を目安に介護計画の見直しを行っている。状態の変化時には、随時、話し合いを行い計画を見直し現状に応じた介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間体制の医療連携体制や、通院介助などを行っている。また、本人の希望や状況に応じて、自宅訪問や墓参りなどを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が希望する医療機関である。医療機関と相談、連携を行いながら、入居者が適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に本人、家族に説明している。また、状況に変化に応じて随時、家族などと話し合いを行うように取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で言葉掛けなどプライバシーへの配慮や個人情報に取り扱いなどについて周知を図っており、職員はそれを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、無理強いくることなく、入居者の意向を大事にして、「のんびりゆっくり話を聞いて」の理念の実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や季節のものを取り入れた献立を考え、下準備、配膳、後片付けなど入居者の状況に応じて一緒に行い、入居者と職員が共に食事を楽しんでいる。自分達で作った野菜などを食卓にならべ、味わう楽しみもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を目安にしているが、入居者の希望や状況に応じて入浴ができる。一人ひとりゆっくり入浴が楽しめる様に配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りを職員に指導してくれたり、花や読書、掃除や洗濯物たたみなど入居者一人ひとりの生活歴や好きなことなどを活かした役割がある。ドライブや買い物、ゲームなど楽しみごとや気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩や買い物、ドライブなど戸外に出掛けられるように支援している。また、天気の良いときは庭でお茶を飲むなども行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出したい様子の入居者は、職員も一緒に同行するなどし、日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や消火器の使い方など年2回の避難訓練（昼対応）を行い、運営推進委員とも防火訓練を行っている。消防団の協力要請も行っているが、実際に一緒に避難訓練を行ったことはない。	○	消防署や地域の消防団、地域の協力者などと共に、昼夜問わず入居者が避難できるように総合的な避難訓練を行うことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は大まかに把握がなされており、夜間の水分摂取も配慮している。入居者の状況に応じて刻み方を変えるなどの支援がなされており、栄養バランスは栄養士に相談し助言を得ている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、木がたくさん使用されており、天井が高く、ソファや畳敷きなど配置にも工夫がみられ、温かみがあり家庭的である。窓からは、庭などの景色が一望でき、季節が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族の写真やぬいぐるみ、本、ポスター、洋服掛けなど、入居者の好みのものなど活かし、本人が安心して過ごせるように取り組んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。